



公益社団法人
鹿児島県理学療法士協会
ニュース No.107 (146)

2025. 12. 15

- 発行 公益社団法人 鹿児島県理学療法士協会
- 発行人 平名章二
- 編集 丸山元大
- 事務局 〒890-0063 鹿児島市鴨池1丁目48-25
TEL 099 (203) 0860
FAX 099 (203) 0865
- 印刷 中礼印刷

総会員 2,505名 (11/15現在)

URL : <http://infokpta.com/>

e-mail : infokpta@po.minc.ne.jp



釜蓋神社 (南九州市)

目次

第39回鹿児島県理学療法士学会の案内	2	研修報告 大隅地区より	12・13
第42回市民健康まつり活動報告	4	研修報告 奄美地区より	14
研修報告 保険政策企画部より	5	鹿児島 理学療法士 特集	15
研修報告 スポーツ事業部より	6	私と私の職場	16
研修報告 高齢者事業部より	8	私のおすすめ	17
研修報告 学術研修部・西薩地区より	9	先輩アドバイス	18
研修報告 始良地区より	10	事務局だより・編集後記	19
研修報告 鹿児島地区より	11		

第39回鹿児島県理学療法士学会のご案内



鹿児島県理学療法士協会
西薩地区大会

[2026年]

第39回鹿児島県 理学療法士学会

KAGOSHIMA PHYSICAL THERAPY
ASSOCIATION ACADEMIC ASSEMBLY

開催方法
対面

オンデマンド
(配信予定)

2026

2/15日

9:30-16:30
(開場 8:45)

会場

いちきアクアホール

〒899-2101いちき串木野市湊町1丁目102内

ホームページ

<https://infokpta.com/pages/168/>

申し込み方法：
決定後ホームページに掲載



会員の方はJPTAマイページよりセミナーID：152230検索の上、お申し込みください。
*非会員や他職種でのご参加を希望される方はホームページよりお申し込みください。
■県内会員：¥1,000 ■非会員：¥10,000円 ■他職種：¥2,000 ■学生：無料

教育講演

臨床での理学療法実践の道標
-臨床推論と意志決定を再考する-

木藤伸宏 氏

広島国際大学
総合リハビリテーション学部
リハビリテーション学科 教授



市民公開講座

健康長寿のカギ！
フレイルの予防と対策

牧迫飛雄馬 氏

鹿児島大学
医学部 保健学科
理学療法学専攻 教授



プログラム

9:30~9:50	開会式	学会長 大久保鉄男
9:55~11:25	教育講演	広島国際大学 木藤伸宏先生
11:35~12:35	口述セッションI	ポスターセッションI・II
13:25~14:35	口述セッションII	ポスターセッションIII・IV
14:50~16:20	市民公開講座	鹿児島大学 牧迫飛雄馬先生

参加ポイント

学会参加：区分2-20
医療マネジメント (5.5ポイント・点)
教育講演：区分3-43
臨床推論 (1.5ポイント・点)
市民公開講座：区分13-154
地域保健 (1.5ポイント・点)

問い合わせ先 第39回 学会準備委員会メール：39thseisatu@gmail.com
主催 | 鹿児島県理学療法士協会 (後援) いちき串木野市

教育講演 [9:55-11:25]

木藤 伸宏 氏 広島国際大学総合リハビリテーション学部
リハビリテーション学科 教授

**臨床での理学療法実践の道標
-臨床推論と意志決定を再考する-**



理学療法には、症状に応じた画一的なマニュアルが存在せず、臨床推論と意思決定によって治療が形づくられる高度な専門性が求められます。本講演では、エビデンスと患者固有の背景・価値観を統合する「Evidence-Informed Physical Therapy Practice (EIPTP)」の視点から、臨床専門技能の中核となる“clinical expertise”を紐解きます。
エキスパートが実践する「分析的思考」と「非分析的思考（直観的思考）」の切り替え、その基盤となるスキーマやヒューリスティクス、さらに成長の鍵となる反省的実践 (reflective practice) について具体的に紹介。
若手からベテランまで、臨床で迷わないための“道標”を再確認し、明日からの実践に活かせる視点を提供します。

市民公開講座 [14:50-16:20]

牧迫 飛雄馬 氏 鹿児島大学医学部 保健学科 理学療法学専攻 教授

健康長寿のカギ！フレイルの予防と対策



健康長寿のカギは“フレイル予防”！
年齢を重ねると、「体力が落ちた気がする」「外出が減ってきた」などの変化を感じることがあります。
こうした心身の弱りを“フレイル”と呼び、放っておくと転倒や病気をきっかけに要介護状態へつながることもあります。しかし、正しく知り、早めに対策すれば予防することができます。
今回の市民公開講座では、フレイルのしくみや、日頃の運動・食事・睡眠でできる予防法を牧迫飛雄馬先生がわかりやすく解説します。

会場・駐車場案内 ……いちきアクアホール



〒123-4567 [駐車場]
鹿児島県いちき串木野市湊町1 4箇所設置
丁目102番地
TEL:0996-21-5800
FAX:0996-21-5801



第42回市民健康まつり活動報告

鹿児島地区担当理事 東 幸太/川上 剛/久米 康隆

事業担当理事 岩森 俊

鹿児島地区長 五十峯 淳一/上川 毅康/川元 大輔/谷吉 航

令和7年10月12日(日)、「第42回市民健康まつり～家族で楽しく健康づくり!～」が鹿児島市西原商会アリーナで開催されました。多数の医療関係職種が一堂に会し、様々な体験や相談・展示コーナーが設けられ、「健康」に対して興味のある地域の方々が多数来場され賑わいました。当日は、鹿児島地区役員を中心に17名の理学療法士がスタッフとして参加しました。理学療法ブースでは高齢者のフレイルチェック、子どものフレイルチェック(子どもロコモ)、MEDkids(メドキッズ:子どもを対象とした医療従事者の職業体験)を実施しました。フレイルチェック290名・MEDkids 41名の方が理学療法ブースに足を運ばれ、体験・セルフチェックを行いました。高齢者フレイルは、バランス・筋力を中心に評価を行い「これは難しい。」「最近筋力が落ちていると感じていた。」「家でもやってみる。」と様々な声が聞かれました。子どもフレイルチェックでは、スマホ・ゲームの普及や、外遊びの減少などによる、体の硬さ、バランス不良など子どもの運動機能低下に対するチェックを行いました。実際に体前屈で手の指が床につかない、しゃがみ込みができない子どももあり、親御さんと一緒に運動指導まで行いました。MEDkidsでは、自分の両親・祖父母の関節可動域や形態測定、腱反射などの検査体験を行いました。実際に体験し、楽しく真剣に取り組む姿にほっこりしました。この場をきっかけに未来の理学療法士が誕生すると嬉しいです。普段の病院業務とは異なり、様々な年代の方々と交流し、忙しくも充実した1日となりました。今回の経験を活かし、次回からの運営に取り組むと同時に、少しでも多くの方に理学療法の魅力を伝えていけるよう努めて参ります。



研修報告（保険政策企画部より）

職能局担当理事 福永 裕樹

職能局担当理事 榎畑 純二

保険政策企画部部長 宮 雅紀

○保険政策企画部研修会

テーマ：「学校保健における理学療法士の役割と可能性」

講師：小 牧 隼 人 先生

会場：オンライン (zoom)

日時：11月5日 (19:00～20:30)

参加者：52名

☆講義内容☆

- ・現代の子どもたちの身体の変化と課題
- ・学校保健領域における理学療法士の役割
- ・学校現場との協働のポイント
- ・制度面の動向と新たな展開

参加者の意見・感想

「学校の現状に即した内容で非常にわかりやすかった」

「姿勢や動きの見方が変わった」

「保護者支援や教員支援、健康教育にも活かしたい」

今回、小牧隼人先生をお招きして研修会を開催し、学校保健における理学療法士の専門性と可能性を改めて強く感じる機会となりました。

特に、子どもたちの姿勢や動きの変化は学校現場でも日々実感されており、その背景には生活習慣や環境の変化が大きく影響していることが示されました。理学療法士がこれらの課題に対し、「学びの土台となる身体づくり」を専門的に支援できる点は非常に価値が高いと考えます。また、教員や保護者と協働しながら子どもを支えるという視点は、今後の学校保健における重要な方向性であり、私たち理学療法士が教育現場とつながる意義を再確認する内容でした。

2024年度に制度化された認定スクールトレーナー制度についても紹介があり、学校と地域を支える専門職として理学療法士の活躍の場がさらに広がることが期待されます。

参加された先生方から寄せられた「学びが多かった」「学校現場の現状が把握できました」という声は、まさに今回の研修会の意義を示すものです。今後も当部として、学校保健に関わる研修や政策提言を継続的に企画し、子どもたちの健やかな成長を支える取り組みを進めていきたいと思っております。

研修報告（スポーツ事業部より）

スポーツ事業部担当理事 大渡 昭彦

スポーツ事業部部事 牛ノ濱 政喜

スポーツ事業部部長 松田 史代

○令和7年度 スポーツ事業部 研修会

テーマ：（臨床で活かせる）肩・肘関節を中心としたフィジカルチェック研修会

講師：吉田 研吾 先生

会場：鹿児島大学保健学科東研究棟2階 運動療法実習室

日時：2025年10月5日 9:30 ～ 12:40

参加者：22名

スポーツ事業部では、2023年度・2024年度と鹿児島県高校野球連盟と協力し、高校生のメディカルチェックを行ってまいりました。今年度の肩肘検診の開催は今のところ調整中のところですが、2025年度開催された場合の協力者向け、および運動器系の臨床現場でも活かせる肩・肘関節を中心としたフィジカルチェックの研修会をスポーツ事業として企画しました。これまでの肩肘検診の事前研修会でも講師を務めてくださっている今村総合病院スポーツ整形外科リハビリテーションセンターの吉田研吾先生にお願いし、10月5日（日）に実技を含む上記の研修会を実施しました。2023年・2024年度は肩肘検診協力者向けの研修会でしたが、今回は参加対象者を拡大しています。そのため、フィジカルチェックを中心に、野球児の肩肘検診だけではなく、臨床場面でも活用できる検査・測定を上半身(特に、肩関節・肘関節)中心に行いました。

実技中心とした研修会であったため、事前に申し込み定員を設定し開催約1ヶ月前には定員に達し、募集を締め切らせていただきました。その後もキャンセル待ちのお問い合わせなどいただきましたが、なかなか希望を叶えることができずに申し訳ありませんでした。スポーツ事業部として、対外団体との協力事業とともに会員向けの実技研修会も今後企画していきたいと思えます。このような研修会を企画してほしい等の要望などありましたら、担当理事・部長までお申し付けください。今年度の肩肘検診の日程等決まりましたら、ホームページ等で周知いたします。

引き続き、よろしくお願いたします。



研修報告 (スポーツ事業部より)

スポーツ事業部担当理事 大渡 昭彦

スポーツ事業部部事 牛ノ濱 政喜

スポーツ事業部部長 松田 史代

○令和7年度 スポーツ事業部 研修会

テーマ：「鹿児島県 県警コンディショニング術の事前研修会」

講師：轟原 与織 先生

会場：鹿児島大学保健学科東研究棟2階 運動療法実習室

日時：2025年11月13日 19:00～20:30

参加者：7名 (講師含む)

スポーツ事業部では、2024年度に引き続き、鹿児島県警察本部より依頼がありコンディショニング術研修会として、柔道・剣道・逮捕術における傷害予防のコンディショニング術研修会を行うことになり、際しまして、協力者での事前研修会を実施しました。

本来ならば、事前に会員の皆さまへ周知しての事前研修会および協力者募集を行うべきところでしたが、締結日より委託日の期間が短く、今回は昨年度実施しました「鹿児島県警コンディショニング術」事前研修会の参加者へ限定して、協力者依頼を行わせていただきました。

実際の各警察署で行うコンディショニング術の内容に沿って、剣道・柔道・逮捕術の競技特性、外傷の特徴と対応、疾患別コンディショニング (肩関節反復性脱臼・膝内側側副靭帯損傷・アキレス腱断裂) および対応したテーピング実技を実施しました。

昨年度も警察署で講師を務めた方が6/7名でしたので、昨年度どのようなことを実際に行い、そのような質問があり、どう対応したのか等の情報共有をしながら、少人数でのテーピングの実技もアットホームな雰囲気で行いました。

皆さん、勤務後の平日・夜の実技研修会でしたが、実際に身体を動かしながら、話をしながら実技を行い、あっという間の90分でした (終了時間は超過しましたが)。

スポーツ事業部として、対外団体との協力事業とともに会員向けの実技研修会も今後企画していきたいと思っております。このような研修会を企画してほしい等の要望などありましたら、担当理事・部長までお申し付けください。引き続き、よろしくお願いいたします。

研修風景の写真



研修報告 (高齢者事業部より)

高齢者事業部担当理事 榎畑 純二
高齢者事業部部長 阿多 昌幸
担当 山崎 正博

○公開講座介護技術研修会

テーマ：「現場で使える！身体に優しい介護技術のコツをつかみ楽々介護を実践しよう」

講師：【前半】柳 裕 大 先生

【後半】幸 田 康 宏 先生

会場：カクイックス交流センター 大ホール

日時：令和7年10月26日(日) 10:00～13:00

参加者：14名

☆講義内容☆

【前半】移乗動作

【後半】用具を使用した移乗介助～腰痛予防を目指して～

本年度も昨年度に引き続き、同じテーマの公開講座を実施しました。今回は内容を【前半：通常の移乗動作】【後半：用具を使用した移乗介助】の二部構成とし、より実践的な研修としました。

参加者は学生、介護士、看護師、事務スタッフなど多職種にわたり、経験年数も2年目から18年目までと幅広い計14名でした。また、3名の公募スタッフに加え、高齢者事業部から理事を含む6名が運営として参加し、講義だけでなく実技も取り入れることで充実した研修となりました。

研修では参加者を3グループに分け、公募スタッフと高齢者事業部スタッフが3台のベッドで2名1組となり指導にあたりました。日頃から移乗動作を行っていても、負担の大きい方法で実施している場合、介護をする側・される側の双方に無理が生じてしまいます。そのため、本研修では講義だけでなく実技演習も交え、現場ですぐに活用できる正しい移乗方法と腰痛予防のポイントを実践的に指導しました。

参加者の意見・感想

「とても為になりました。ありがとうございました。」

「重心移動の方法がよくわかりました。」

「移乗における注意点が勉強になりました。介助用具とても助かります。職場でも提案します。」

所感

アンケート結果から、研修会の内容については全体的に好評をいただきました。

昨年度の反省点であった「時間が足りなかった」という点についても、テーマを大きく2つに絞ったことで改善がみられ、良かったと感じています。

また、参加者から「建物の入口から会場（大ホール）までの道順が分かりにくかった」というご意見があったため、次年度の開催時には案内表示などを改善したいと思います。今後も高齢者事業部として、地域社会に貢献できるよう努めてまいります。

研修風景の写真



研修報告 (学術研修部より)

学術研修部担当理事 白尾 麻美
学術研修部部長 福森 愛美

○学術研修部研修会

テーマ：「ウィメンズヘルス理学療法」
講師：田舎中 真由美 先生
会場：鹿児島医療福祉専門学校
南星ホール
日時：10月5日 10:00～13:00
参加者：対面25名

☆講義内容☆

- ・骨盤底機能の機能解剖と運動機能
- ・産後機能障害に対する理学療法 等

参加者の意見・感想

「実技も交えた講義で勉強になった」
「機能解剖を丁寧に教えて頂いた」

所感

妊娠・出産による骨盤底機能の変化や産後骨盤帯疼痛／産後尿失禁に対する評価、更年期・高齢期の機能障害に対する理学療法についてデモンストレーションも含めてご講義頂きました。非常に分かりやすい内容で、参加者からも好評でした。



研修報告 (西薩地区より)

西薩地区担当理事 岩 森 俊
西薩地区長 大久保 鉄男

○令和7年度 第2回西薩地区研修会

テーマ：「電気刺激療法の基礎と臨床応用」
講師：淵上 祐一先生
会場：いちき串木野市医師会立脳神経外科
センター
日時：10月23日
参加者：12名

☆講義内容☆

- ・電気刺激療法の種類と基礎を学ぶ
- ・実技、体験を通じ、治療効果を実感する

参加者の意見・感想

「電気刺激療法の奥深さを学習できた」
「実技を通じて効果を実感できた」

第2回西薩地区研修会を上記内容で開催致しました。平日の夜にも係わらず地区内外の先生方にご参加いただきました。講師の淵上先生から電気刺激療法の基礎について大変分かりやすくご説明頂き、実技を通して実際の効果を体感させていただきました。実際体感することでより臨床に生かしやすい研修となりました。1時間という時間ではもの足りない充実した内容でご参加頂いた皆様も積極的に実技に取り組みました。

今年度西薩地区では2回の研修会を開催致しました。来年度以降も研修会を開催して参ります。皆様、是非ご参加下さい。



研修報告 (始良地区より)

始良地区担当理事 鈴木 伸洋

始良地区長 福榮 竜也

○令和7年度 第1回始良地区 症例検討会開催

演題①テーマ：『脳脊髄液減少症により、歩行障害を呈した症例 ～歩行再獲得に向けて～』

発表者：青雲会病院 霜 出 直 也 先生

演題②テーマ：『アテローム血栓性脳梗塞を呈した症例 ～歩行改善に向けて～』

発表者：青雲会病院 切 口 雄 大 先生

座 長：隼人温泉病院 黒 木 博 和 先生

会 場：Web開催(Zoomミーティング)

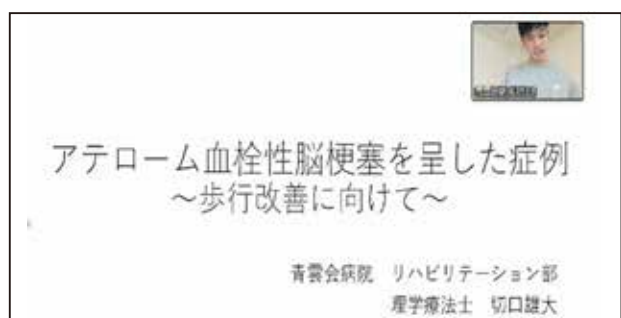
日 時：令和7年10月31日(金) 19:00～21:00

参加者：58名

第1回始良地区症例検討会をZoomにて開催いたしました。今回は2名の先生にご発表をいただきました。

青雲会病院の霜出直也先生より「脳脊髄液減少症により、歩行障害を呈した症例 ～歩行再獲得に向けて～」というテーマで30分間の発表および質疑応答が行われました。本症例は稀な疾患であり、文献を参考しても確立した運動療法がない中、丁寧な評価を通して問題点を抽出し、的確なアプローチを実施された結果、歩行の再獲得に至ったケースでした。疾患の特徴についても詳しくご説明いただき、今後同様の症例を担当する際の大きな示唆となりました。青雲会病院の切口雄大先生より「アテローム血栓性脳梗塞を呈した症例 ～歩行改善に向けて～」というテーマで30分間の発表および質疑応答が行われました。本症例は急性期において歩行は可能であったものの跛行を認め、足部および体幹に着目したアプローチにより跛行の改善が得られたケースでした。質疑応答では、装具の使用や上肢への介入など多角的な視点から活発な意見交換がなされ、臨床への応用可能性を強く感じる内容となりました。

開催にあたって座長の黒木先生の的確な進行により、円滑かつ有意義な検討会を実施することができました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。次回は1月に開催を予定しております。多くの先生方のご参加をお待ちしております。



研修報告 (鹿児島地区より)

鹿児島地区担当理事 東 幸太/川上 剛/久米 康隆
鹿児島地区長 上川 毅康

○令和7年度 第1回鹿児島地区 研修会

テーマ：「脳卒中片麻痺の上肢のみかた」
講師：前田 敏也 先生
会場：天陽会中央クリニック リハビリ室
日時：2025年11月14日 19:00～20:30
参加者：16名

☆講義内容☆

- ①脳卒中上肢麻痺の評価（特性や選択方法、解釈など）
- ②脳卒中上肢麻痺の予後予測
- ③脳卒中上肢麻痺の評価と治療 ～実践編～

社会医療法人 天陽会中央クリニック リハビリ室にて第1回鹿児島地区研修会を対面にて開催いたしました。今回、豊島病院の前田敏也先生を講師にお迎えし「脳卒中片麻痺の上肢のみかた」について講演賜りました。

神経系理学療法の評価の目的や特性、脳卒中上肢麻痺の予後予測について詳しく説明して頂きました。

また、実技では肩複合体の触察や徒手的介入方法を学び、参加された皆さんも熱心に取り組み、大変有意義な研修会となりました。

今回の研修を通し、様々な学びや気づきを得ることができ、参加者の皆様の臨床での一助になれば幸いです。今後も会員の皆様の臨床に生かせる研修会を企画して参りますので、ご参加の程よろしくお願ひ致します。



研修会報告 (大隅地区より)

大隅地区担当理事 永瀆 良太

大隅地区長 新保 千尋

○令和7年度 第3回大隅地区 研修会

テーマ：「機能面を中心とした投球障害肩に対するアプローチ」

講師：吉田 研吾 先生(今村総合病院)

会場：Web開催(Zoom)

日時：11月7日(金) 18:30~19:30

参加者：36名

☆講義内容☆

- ・投球動作の代表的な疾患
- ・投球動作に必要な機能と基礎動作
- ・評価内容とアプローチ



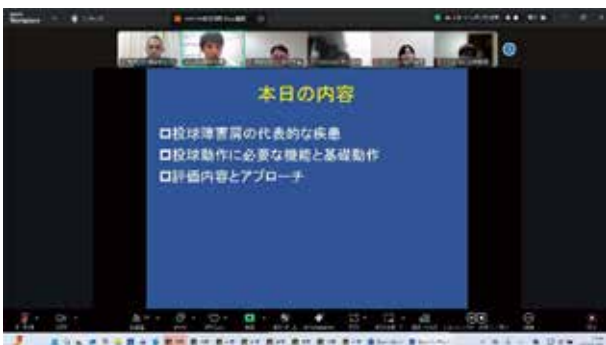
参加者の意見・感想

「投球動作の基礎から評価、治療について講義して頂き、わかりやすかった。臨床（実際の介入）に即しており、明日から活かすことのできる内容であった。」

「投球動作における理学療法を行う上で、先生の大事にしている点を講義して頂き、治療を行う上で丁寧に診ていくことの重要性を再認識できた。」

所感

第3回大隅地区研修会にて今村総合病院の吉田研吾先生にご講義を頂きました。本研修会では、まず投球障害肩の代表的な疾患における基礎知識から肩関節の特異的な症状などをご説明頂きました。次に、投球動作において肩関節への負荷が高まる(疼痛など)を誘発しやすい時期に対する先行研究などからの知見を報告して頂きました。その後、これらの知見から先生が普段臨床で実施している評価内容の紹介、治療内容について詳細にご教授いただきました。参加者において投球動作は下肢、体幹などを含めた全身を使った運動であり肩や肘関節などがその影響をどのように受けているかといった点を理解できたのではないかと考えます。



研修会報告 (大隅地区より)

大隅地区担当理事 永瀆 良大
大隅地区長 新保 千尋

○令和7年度 第1回大隅地区 症例検討会

①「脳幹出血により右片麻痺を呈した症例の歩容改善に対し、中殿筋への機能的電気刺激が有効であった一例」

発表者：布袋屋 初 音 PT (恒心会おぐら病院)

②「大腿骨転子部骨折術後の膝関節痛に対する治療介入の経験」

発表者：山 田 なずな PT (恒心会おぐら病院)

会 場：Web開催 (Zoom)

日 時：11月14日 (金), 18:30~19:30

参加者：症例検討会①30名, 症例検討会②29名

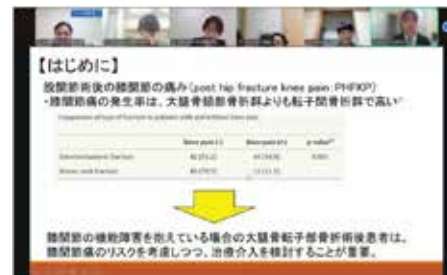
参加者の意見・感想
「症例検討会を行う上でのまとめ方など参考になった。」
「臨床で診る機会の多い疾患であり、治療内容など評価を基に検討されており参考になった。」

所感
第1回大隅地区症例検討会を11月14日開催し、大隅地区より2人の先生に発表していただきました。参加者の質疑も建設的な意見が多く、発表者だけでなく、聴講者も学びが多い会になったと思います。
症例①の布袋屋PTは脳卒中後の歩容改善として麻痺側での中殿筋に対する機能的電気刺激の効果に対する報告でした。実施前後における症例の内省や歩行時の関節角度などに対しても評価をされ、わかりやすい報告を行って頂きました。
症例②の山田PTは大腿骨転子部骨折後の膝関節痛に対し膝関節機能を解剖学的に検討され、疼痛軽減と歩容改善に対する報告でした。報告の中には膝関節痛を抱える症例の特異的なパターンや歩行に対する自己効力感などの検討から報告を行って頂きました。
症例をまとめ、報告することは理学療法士として重要な学びになるかと思えます。今後も継続して症例検討会を開催していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

症例検討会①



症例検討会①



研修報告 (奄美地区より)

奄美地区担当理事 岩森 俊
奄美地区長 正野 夢大

○令和7年度 第1回奄美地区 研修会

テーマ：「ストレッチポール®・ひめトレ®基礎実技研修 ～コアをゆるめて、しめる～」

講師：奄美中央病院 理学療法士 江崎 和信 先生

会場：新川ふれあい館

日時：2025年11月8日（土）14：00～17：00

参加者：5名

☆講義内容☆

本研修会では、講義と実技を交えてご指導いただきました。講義では、コアの役割や姿勢・呼吸・骨盤底筋の機能について説明があり、「ゆるめる・整える・引き締める」の三段階を基礎とした考え方が示されました。

実技では、ストレッチポール®による基本姿勢、呼吸の促し方、胸郭の広がりや体幹の脱力を引き出すエクササイズを体験し、参加者全員が姿勢の変化や脱力感を確認しながら理解を深め、後半では、ひめトレ®を用いた骨盤底筋へのアプローチを行い、呼吸との連動性や腹圧コントロールを意識したエクササイズを実践いたしました。骨盤底筋の感覚入力が得にくい対象者への指導の工夫など、臨床応用につながる内容も多く含まれておりました。

全体として、基礎理論から臨床への応用まで一貫して学べる、実技中心の研修内容でありました。

参加者の意見・感想

「床と一体になったような感覚があり、とてもリラックスできた」

「実際に体験できたことで臨床にそのまま活かせるイメージが湧いた」

「新人や経験年数の浅い先生方にも入りやすい内容で、もっと参加者が多くても良い研修だった」

「少人数だったことで質問しやすく、講師との距離が近くて学びやすかった」

「ざっくばらんで雰囲気がよく、終始参加しやすい研修会だった」

実技が中心であったことから、参加者の体感的な気づきや変化が多く聞かれ、臨床応用の具体的なイメージを持ちやすい内容であったとの評価が多かった。

所感

今回の研修会は参加人数こそ多くはなかったものの、講師と参加者の距離が非常に近く、終始活発な質問や意見交換が行われ、大変有意義な研修会となりました。少人数であったことはデメリットだけでなく、講師の丁寧な指導や参加者同士のコミュニケーションが取りやすく、学びの深い時間につながったように感じております。今後も会員の皆様の希望や臨床ニーズを踏まえ、参加しやすく実用的な研修会を企画し、地区全体の学びの機会を広げていきたい。

また、今回の研修を通じて、実技を伴う研修の重要性や、講師と参加者の相互作用による学習効果の高さを改めて感じた。今後もこのような雰囲気づくりを大切にしながら、地域の研修会運営に努めていきたい。



新コーナーSTART <鹿児島の理学療法士 特集>



南さつま市議会議員
理学療法士（前看護師）

谷口雄大さん

経験年数：4年4か月時点で退職（看護師歴5年）

座右の銘：いにしへの道を聞かなくても唱えてもわが行ひにせよば
かいなし（島津日新公 いろは歌 より）

Q 議員を目指したきっかけは？

A

私自身、20代の頃は政治に無頓着でした。きっかけはYouTubeで政治家の発言や地方議会での発言のやりとりを多く目にするのがあり、徐々に興味が沸き始めました。

また、臨床で働く中で患者さんの地域での生活課題など現場では介入できない問題に悩まされることもありました。特に人口減少社会の中で我々が中心世代となる時代を想像すると負担増など危機感を強く覚えるようになり、政治介入の必要性への意識が強くなりました。

Q

これまでの経験で、特に思い出に残っていることは？

A

看護師として働いていた時代の1年目。脳神経外科で勤務していましたが、ストレッチャーで入院した患者さんが抗がん剤治療やリハビリ後に独歩で退院する姿は今でも鮮明に覚えています。当時は寝たきりの人が歩いて帰った！と感動しました。他にも患者さんとの関わりでは人生観に触れることができ、良い刺激になることが多くありました。

Q

今後の目標は？

A

今回の挑戦は先んじて行動することを意識しました。考えすぎて時期を逃してしまっただけ後悔するだろうと思ったからです。結果を求めず、行動に結果がついてきた。という表現が合っているかと思います。この行動力を武器に様々な経験を重ねていきたいです。そして、その経験が他の誰かの刺激になってくれたら非常に嬉しく思います。

Q

最後に！会員へ向けて、メッセージをお願いします！

A

前述したように結果を恐れず行動してみてください。行動の中にある熱意が伝われば、それだけ支援してくれる人がいる。その支援はさらなる動きを生み、想いが伝播していくと思います。人とのご縁を大切に、私自身も感謝しながら活動してまいりますので一緒に頑張りましょう！！

私と私の職場

社会医療法人天陽会 中央クリニック

鹿島 正広

朝晩がめっきり寒くなり、鍋が美味しく感じる季節となりました。私事ではありますが、我が家でクリスマスの飾りつけを任命され、彩られたツリーやリースをせっせと運び、少々慌ただしさを感じながら年の瀬を迎えようとしています。

さて今回、私の職場であります「社会医療法人天陽会 中央クリニック」と、当法人施設である「中央病院」を含めて紹介させていただきます。社会医療法人天陽会は、昭和30年に設立され「天の陽のごとく、医療をつうじて、地域に永遠に貢献します」を理念におき、今年で創立70周年を迎えることができました。病院の発展と共にリハビリテーション室も成長し、PT26名、OT6名、ST3名と、総勢35名のセラピストが従事しています。2010年には「中央病院ハートセンター」が開設され、循環器疾患に対するリハビリテーションはますます充実し、更に、最近では整形疾患の診療や手術件数も増えつつあり、循環器疾患のみならず多数の疾患に対応しています。アットホームな雰囲気の中で、患者さんに寄り添った介入ができるように心掛けています。

院外での活動として、医師と連携を取りながら少年野球チームを対象に「野球肩・肘検診」を行ったり、国民スポーツ大会や高校インターハイに帯同するスタッフがいるなど、スポーツ障害に対して尽力しています。私自身も今夏、東京で開催された「東京2025世界陸上」にメディカルスタッフとして参加し、海外選手と交流したり、施術した選手からゼッケンのプレゼントを頂いたり(笑)と、貴重な経験をすることができました。

まだまだ若いつもりでいましたが、いつの間にか歳を重ね、気が付けば多くの後輩もできてきました。スタッフ全体で協力し合いながら、症例検討会や講習会など定期的開催スキルアップを図っています。変わりゆく環境の中でこれからも「フットワークは軽く、まずはチャレンジ」の精神で何事にも取り組み、地域に貢献できるセラピストになれるよう励んでいこうと思います。

最後に、会員の皆様の更なるご活躍をお祈り致しまして、本文の結びとさせていただきます。



私のおすすめ

医療法人 美崎会 国分中央病院

橋口 泰征

「1日10分、心から笑う。それが一番効く治療だった。」

そんな話を聞いたら、思わず眉をひそめたくなるかもしれません。でも、それを実際にやって病を乗り越えた人がいます。ノーマン・カマンズ『笑いとお癒力』は、彼の実体験に基づくノンフィクションです。

私は現在、慢性期病院で勤務しており「回復」とは目に見える機能改善だけでなく、日々を少しでも前向きに過ごせるかどうかそんな視点も大切なのではないかと感じます。本書「笑いとお癒力」は難病を患った著者がチャップリンの映画“笑い”を処方し、驚くほど回復していく実話です。笑う事で痛みが和らぎ、交感神経の緊張が緩み、免疫系までもが整っていく。科学的根拠も交えつつ、ユーモアの力を描いています。

私達、理学療法士が提供する「リハビリテーション」にも、笑いや会話といった心の働きが欠かせません。

「笑う事」が機能訓練以上の意味をもたらしてくれることを、日々実感している方には特に響く一冊となっていると思います。

理学療法においても、身体的アプローチはもちろん大事なのですが、それだけでなく情動的・社会的要素を含めた多面的支援が求められる今、本書の示す“笑いの生理学”は重要な視座となります。

治療関係における非言語的介入の意義を再考するうえで、専門職として一読の価値がある一冊と私は思います。



著者：ノーマン・カマンズ

訳者：松田 銃

出版社：岩波書店

<https://www.iwanami.co.jp/book/b256279.html>

先輩のこと教えてください！

interview

今号から新企画！先輩PT紹介

このコーナーでは、鹿児島県内で長年理学療法士として活躍されてきた方をご紹介します。



理学療法士

原口拓人さん

所属先：加治木温泉病院

経験年数：17年目

座右の銘：天命を待つ

Q 理学療法士を目指したきっかけは？

A 家族や身近な人のケガや病気を見て、「自分にできることは何か」と考えたのがきっかけです。

身体を支え、生活を取り戻す仕事に魅力を感じ、理学療法士の道を選びました。

Q これまでの経験で、特に注力してきたこと、特に思い出に残っていることは？

A 臨床では患者さんの生活背景に目を向けたリハビリに注力してきました。また、協会役員を経験し、裏方の仕事の大切さやチーム全体の支えになることを学びました。

Q 今後の目標は？

A 臨床や協会役員での経験を活かし、若手理学療法士が挑戦できる環境づくりに貢献したいです。

視野を広げる機会を提供し、臨床や活動に積極的に関われる人を増やしていきたいと考えています。

Q 最後に！後輩へ向けて、メッセージをお願いします！

A 地道な努力や裏方の経験、慣れないことへの挑戦を大切にしてください。

一歩ずつの経験が、自分の成長や自信につながります。

事務局だより

令和7年10月1日～令和7年11月15日現在受理分

学術誌

- 鹿児島県医師会報 第892号
- 第7回 日本再生医療とリハビリテーション学会
学術大会抄録集
- 理学療法ジャーナル 第59巻第10号
- 理学療法ジャーナル 第59巻第11号
- 鹿児島県医師会報 第893号

ニュース

- 秋田Vol. 218 広島No.283
- 熊本No.149 (WEBダウンロード) 神奈川No.305
- 長野No.91 北海道No.245

<会員動向> (10/1～11/1定期承認まで)

- 入会 4件 県内異動14件 転入 2件 転出 0件
- 休会 7件 休会継続 1件 復会 2件 退会 3件

会員動向に関する詳細は非公開とします。

- 会員数 2505名
- 会員所属施設数 466施設

会長行動録

- 10月3日 快護フェス関係者交流会
- 10月4日 JPTA理事会視聴
- 10月6日 業務執行理事会
- 10月9日 士会理事会
- 10月10日 JPTA60周年記念式典
- 10月11日 JPTA組織運営協議会
- 10月17日 第2回リーダー塾
- 11月10日 業務執行理事会
- 11月12日 士会理事会
- 11月13日 自民県連意見交換会・陳情
- 11月15日 訪問リハ研修
- 11月15日 介護予防推進リーダー研修
- 11月16日 地域ケア会議推進リーダー研修
- 11月18日 県在宅医療・介護連携推進協議会
- 11月20日 国民医療を守るための総決起大会・
県理学療法士養成課程臨床実習指導者
養成連絡協議会
- 11月27日 JPTA斉藤会長意見交換会
- 11月28日 九州ブロック士会長会議
- 11月29日 九州理学療法士学術大会 (～30)



編集後記

今年も残すところ後わずかとなりました。皆様2025年はどうでしたか？ 私はこの一年、いろいろなことに挑戦をした一年でした。仕事面ではPT 5年目となり新人指導者を任されました。プライベートでは、趣味であるカラオケから人前で歌うイベントに参加したり、ギターの練習を始めたりしました。まだまだ寒い日が続きますが体調に気を付けて2025年ラスト楽しく頑張っていきましょう。

広報誌に関してご意見等ございましたら、広報部まで連絡をお願いします。

rihabiri@gyokusyoukai.com

広報部 佐久間 透 也